

県西部臨海地域における工業発展に寄与

むくなし 椋梨ダム



沼田川は広島県東広島市福富町のカンノ木山に源を発し、東南に向けて流れ、河内町・本郷町など三原市を貫流して瀬戸内海へ注いでいます。沼田川下流部は、近世から近代にかけての干拓によって陸地化したもので、河口付近の左岸はすでに干拓されていた土地と昭和初期以降、また右岸は戦後になって埋立されたもので、市街地の大部分が標高2m以下となっています。

このような立地のため、沼田川流域では古くから洪水に見舞われてきました。昭和7年(1932)から17年まで下流部の改修工事は行われましたが、昭和20年9月の枕崎台風では計画高水位を0.5～1.0m上回りました。この台風と匹敵する降雨に見舞われたなら、破堤の恐れもありました。

一方、広島県西部地区の臨海工業地帯は広島湾の整備、呉・大竹の軍需工場跡の転換などによって整備され始めていましたが、東部地区は立地条件の不備が目立つためか、昭和30年代初めに福山・竹原へあった三菱石油等の誘致話も立ち消えになったそうです。このため、臨海地域における工業化の発展のためには、広島県中東部地域における水資源開発が急務となりました。

こうして、沼田川支流の椋梨川に洪水調節、水道用水、工業用水の供給並びに発電を目的として多目的ダムが河内町小田(現・東広島市)に計画されました。昭和44年に完成した椋梨ダムは、沼田川総合開発の一環をなすもので、ダム周辺の自然環境を保護しながら、河川敷を含めた基盤整備が行われています。なお、近年の工業用水重要の減少と水道用水需要の増大に退所するため、沼田川水道水道事業に日糧69000m³の転用を行い、三原市・尾道市・福山市、竹原市及び本郷町に給水を行っています。

貯水池は椋梨川に伝わる伝説から「白竜湖」と名付けられ、上流周辺にはスポーツ施設、湖畔には「道の駅」やリゾートセンター等が整備され、ダム湖を中心としたレクリエーションが楽しめます。

■位置図



椋梨ダムの貯水池「白竜湖」
総貯水容量 7,540千m³



沼田川水道用水供給水道「本郷浄水場」



道の駅 よがんす白竜



椋梨ダム(重力式コンクリートダム、堤高39.5m、堤頂長213.4m)